



右目と左目。



ガバナー通信

NO
5

国際ロータリー第2620地区
2021-2022年度ガバナー

小林 聡一郎



ガバナー挨拶

最近の写真撮影もすっかりスマホになり、画面を見ながらシャッターボタンに触るだけになりました。大きな画面のiPadならなおさら撮りやすく、フレームに収まる範囲も確認しやすいので、つい安易な撮影をすることも多く、削除の手間が増えることになりました。写真保存も簡便ですから、見たい写真も難無く画面に現れて苦労もありません。などと言っているのは、これまで散々一眼レフで撮影してきたからで、デジタルカメラも初期の8万画素に驚いた世代にとってみれば、まさに隔世の感があります。デジタルの前は当然フィルムですので撮影できる枚数が決まっています、そう何枚も同じ被写体を撮影することができません。シャッターを押すのも慎重になって、絞りは、ピントは大丈夫か、チェック項目も多いのですが、そんな時の撮影では、当然どちらかの目でファインダーを覗くことになりました。無意識に右目で、という人もいると思いますが、左目が得意という人もいます。利き目ということでしょうか、その目で覗き、もう片方の目で実像を見るとということになります。何かを見る時の実像と虚像のような関係があるのかも知れません。

そこで、ロータリー財団の補助金について、これまで見てきた利き目を変えてみてください、というお願いです。ロータリー財団から地区に配分される補助金には、地区補助金とグローバル補助金があります。当地区においては、地区補助金は全額を申請のあった奉仕活動のためのクラブ支援に回し、残金ゼロになるように分配してきました。クラブが地域の様々なニーズに対応できるように、あまり細かな制限をつけずに使い勝手良く使える補助金として、クラブにおいても利き目で見ることのできる補助金です。

そこでグローバル補助金についてです。この補助金はクラブと地区と財団がお金を出し合い、総額3万ドル以上の奉仕活動に使えるのですが、この補助金を使うには7つの重点分野の奉仕活動であることが必須で、客観的評価ができる持続可能な活動であることなどの要件もあります。また海外クラブとの共同奉仕事業になりますので、双方の協力や、場合によれば現地調査も必要になるなど、なかなかハードルが高いために、使い勝手が悪い補助金となってきました。いわばつづつたままの目ということと、ここへの関心が薄れてしまう傾向にあったように思います。

グローバル補助金を使い、地区裁量でクラブを後押ししながら実施してきた活動はいくつもありませんが、クラブが起点となってこの補助金を使う活動が少ないのです。そこでこの補助金を使って海外クラブとも協力しながら奉仕活動をお考えでしたら、地区ロータリー財団委員会にご相談ください。アドバイスやお手伝いをさせていただきます。

地区補助金とグローバル補助金をバランスよく使いながら、地元で海外で活動する、両目を開いた財団活動の取り組みにしてください。

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

[国際ロータリー第2620地区 ガバナー月信 2021.11 / ロータリー財団月間号]

地区運営ビジョン

ロータリーの中核的価値観をロータリアンの行動に変換する。



地区戦略ビジョン

元気で魅力があり地域で存在感のあるクラブを目指してロータリーの価値を高めよう。

DO MORE ☆ RID2620 TOPICS

10月ガバナー公式訪問



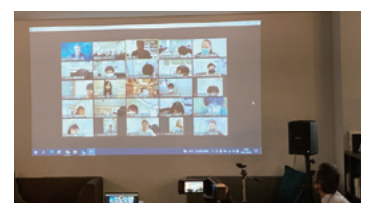
10月のガバナー公式訪問は感染予防対策を取りながら、対面での会長幹事会および例会の開催が実現しました。10月1日(金)に甲府東RC、甲斐RCの会長幹事会および合同例会が岡島ローヤル会館(写真左)で、同4日(月)に山中湖RC、富士吉田RCの会長幹事会および山中湖RC例会がホテルマウント富士(写真中央)で、そしてガバナー公式訪問の最終日の同6日(水)に甲府北RCと甲府城北RCの会長幹事会および合同例会が湯村常磐ホテル(写真右)で開かれました。

7月12日(月)に静岡RCへの訪問から始まったガバナー公式訪問は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、対面でのクラブ訪問を実現できない場合はZoomでの会長幹事会を開催し、またハイブリッド例会やZoomで例会を開催しているクラブへはオンライン例会に出席させていただきました。コロナ禍におきましても全クラブの会長・幹事の皆様、クラブ役員の皆様とシェカール・メータRI会長方針などについてお話し合いできましたことは、皆様のご協力の賜物と、深く感謝申し上げます。

静岡産業大学での冠講座開催報告

10月5日(火)、静岡産業大学で小林聡一郎ガバナーを講師に「ロータリー概論」の授業が行われ、学生ら50名が熱心に聴講しました。藤枝RCでは、2008年から静岡産業大学で、同クラブ会員による全6～12回の冠寄付講座を行っており、毎年第1回目をガバナーに依頼しています。同日は感染対策のためオンライン(Zoom)で、藤枝RCの例会セレモニーを行った後、講座がスタートしました。小林ガバナーはRCの草創期から日本でのクラブ設立、戦中戦後からいまに至る変遷を「ロータリーは一日にしてならず」という言葉とともに学生らにもわかりやすく解説されました。ロータリーの精神の話になると、学生らはメモを取り始め、特に職業奉仕への関心が高いようでした。

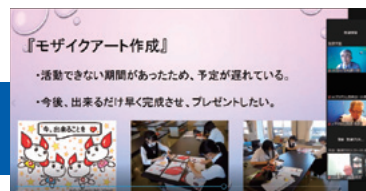
ポリオプラスへの取り組みが新型コロナ感染対策に活かされていることに話がおよぶと、学生から「オー」と声が上がりました。小林ガバナーから「ロータリーの初期メンバーはみな30代。国や地区の垣根なく君たちが君たちの考えでクラブを創立することも可能」と話すすと、学生から「設立や会員になるにはいくらかかるのか」など具体的な質問も飛び、白熱した講義となりました。(藤枝RC会長 江崎晴城)



米山記念奨学会世話クラブカウンセラー研修会開催報告

10月10日(日)、地区内の米山記念奨学生が在籍する世話クラブ会長、カウンセラー、米山記念奨学生を対象に「世話クラブカウンセラー研修会」をZoomで開催いたしました。

研修会内容は、午後1時から小林聰一郎ガバナーのご挨拶で始まり、来賓として、(公財)ロータリー米山記念奨学会井上雅雄理事、安間みち子アドバイザーからご挨拶をいただきました。その後、メインセッションとしてクラブ会長、カウンセラーを対象とした研修会と米山記念奨学生を5~6名ずつに分けたサブセッションを同時進行で実施しました。メインセッションでは米山記念奨学事業の歴史から始め世話クラブの役割、カウンセラーの役割をそれぞれ確認すると共に、手続関係や危機管理について研修しました。サブセッションでは小人数での意見交換を主体とし、奨学生たちが今思っている事を委員会メンバーが聞き取りし、丁寧にアドバイスをを行いました。その後、カウンセラーと奨学生からそれぞれ1分間スピーチを行っていただき、クラブ内の様子や奨学生の近況を確認しました。今回の研修会は大半の学生が米山記念奨学生となってから半年が経過するところで実施しましたが、コロナ禍の中で奨学生たちが現在感じている悩みや目標を確認することができたこと、世話クラブ・カウンセラーが今後どのように奨学生をフォローして行けば良いのかを共通の認識として確認できたことが良かったと思います。各米山奨学生の残された奨学期間が充実したものになるよう、世話クラブ、カウンセラー、地区委員会がチーム一丸となって今後もサポートしていきたいと思っておりますので、国際親善の最前線でご活躍いただいている皆様方のますますのお力添えをよろしくお願いいたします。(米山記念奨学委員会委員長 柳場文彦／山梨RC)



インターアクト指導者講習会開催報告

インターアクト指導者講習会が10月17日(日)午後1時から、ホスト校の聖隷クリストファー中・高等学校で初めてオンライン開催されました。今年度のテーマは「医療関係者にエールを」「新たな地域貢献活動」「日頃取り組んでいる活動」。

小林聰一郎ガバナーに祝辞をいただいた開会式に始まり、その後、参加16校の活動報告が各校3分間の制限の中、動画、パワーポイント等それぞれが工夫を凝らし発表されました。休憩を挟んで、4つのグループに分かれ意見交換を行い、生徒からは「他校の活動がとても参考になったので今後の活動に取り入れたい」、ロータリアンからは「ロータリーに対する要望をどしどし伝えてほしい」等の意見がありました。その後、各グループからの感想発表があり、閉会式で小澤邦比呂ロータリープログラム委員会委員長に講評をいただき、午後3時半に閉会となりました。



コロナ禍で全ての活動が制限される中、各校とも創意工夫して「できること」を見出し、顧問先生のご指導の下、メンバーが一丸となって活動してきた姿勢に深く感動し、ロータリアンとしても刺激を受け、インターアクトクラブの若いパワーと可能性を垣間見ることができた中身の濃い「指導者講習会」となりました。終わりに、開催に相当のご準備を費やされ、当日の設営や進行にご尽力いただきました聖隷クリストファー中・高等学校の関係者の皆様に敬意を表します。(インターアクト小委員会委員長 雨宮俊彦／甲府RC)

世界遺産三保の松原海岸清掃&BBQ懇親会開催報告

10月は米山月間であることから当地区米山学友会の活動一環として10月17日(日)に三保の松原の海岸清掃ボランティアとバーベキュー交流会を学友11名、奨学生10名、委員会ロータリアン2名の総勢23名で行いました。清掃活動は海岸のゴミ拾い、松原の除草作業で、新型コロナウイルスの影響でボランティアに来る人が激減している中で清掃活動をしたことに管理者から大いに感謝の言葉を頂きました。清掃活動後、近場にあるバーベキュー会場を貸し切り、皆さんと楽しいランチ交流会を行いました。今回は感染対策として参加人数の制限、バーベキューでのお酒の提供無し等、色々と制限がある中での活動ではありましたが、楽しくお互い交流を深めながら社会貢献活動をすることが出来ました。今回をきっかけに次年度以降も継続的に同じような社会貢献活動を企画したいと思います。参加して下さいました皆さん、ありがとうございました。(国際ロータリー第2620地区米山学友会会長 青山チャリット)



お知らせ

◆ロータリー財団月間を迎えて



ロータリー委員会
副委員長
望月啓行(静岡RC)

11月はロータリー財団月間です。国際ロータリーのロータリー財団は、1917年にアーチC.クランプの提唱により、「世界でよいことをするため(Doing good in the world)」として作られ、100年以上にわたりロータリーの奉仕活動の原動力になっています。現在、1年以上続いた新型コロナウイルスにより、ロータリーの奉仕活動も様々な影響を受けました。あるクラブでは中止になり、またあるクラブでは変更を余儀なくされました。しかし、このような時でも私たちの奉仕を必要としている人はいますし、また新しいニーズも生まれてきています。この財団月間に、もう一度ロータリー財団の事を理解・確認をし、皆様のロータリーを通じた奉仕活動がますます充実したものになる機会にさせていただきたいと思えます。地区財団委員会は、クラブでの財団に関する卓話を随時受け付けております。ご要望がありましたら地区委員卓話派遣要請書をガバナー事務所へご提出ください。



望月副委員長
メッセージ

◆ロータリー日本創立100周年記念出版 「ロータリー日本100年史」のご案内

1920(大正9)年10月20日、東京RCが創立され、初代会長に米山梅吉氏、初代幹事に福島喜三次氏が就任しスタートした日本のロータリーは、このたび創立100周年を迎えました。本来ならば全国のRCあげて盛大にお祝いするところでしたが、新型コロナウイルス感染症の収束が見られないため祝賀会等の中止を余儀なくされ、静かに100周年を迎える事となりました。そして今年5月25日に「日本のロータリー100周年を祝う会」が開催され、千玄室・元RI理事の講演「果たしてロータリーとは?過去・現在・未来」を始めパネルディスカッション、祝舞「三番三」などで100周年を祝いました。全国のロータリアンはオンラインで視聴されたことと思います。また10月22日の日経新聞に1ページ大の100周年を祝うロータリー広報が掲載されました。多くの皆様をご覧になったことと思います。

さて、創立100周年にあたり「ロータリー日本100年史」が発刊された事は皆様ご存じかと思えます。約8年前に「ロータリー日本100年史編纂準備委員会」が当地区故高野孫左エ門PDG(先代)を委員長にロータリーの友委員会に組織され、その後ロータリー米山記念奨学会、ロータリー文庫、東京RCを加えて「ロータリー日本100年史編纂委員会」となり、小林聰一郎ガバナーも編纂に深く関わり約8年という歳月をかけて刊行されました。手に取られた会員の方は、その重厚な装丁と内容の濃さに驚かれた事でしょう。内容に関しては『ロータリーの友6月号』P49を今一度ご一読頂き、ご購入を希望される方は、各クラブ事務局にお申し込みのうえ、お手許に置いて頂ければ幸いです。私は本書籍を拝読し「これからも矜持を持ってロータリー活動に取り組んでいこう」と僭越ながら襟を正した次第でございます。各クラブにも既に1セット贈呈済みですので、是非お手にとってご覧のうえご予約ください、ご感想等もお寄せ頂ける事をお待ち申し上げます。

知仙の 「友」の輪



ロータリーの友
地区代表委員
吉原知仙(甲府南RC)



吉原地区代表委員
メッセージ



訂正

ガバナー月信10月号P22ガバナー公式訪問記事に誤りがありました。訂正してお詫び申し上げます。

【誤】甲府南RC(写真上)→【正】甲府南RC(写真中央) 【誤】甲府シティRC(写真中央)→【正】甲府シティRC(写真上)

発行:ガバナー事務所

〒400-0072 山梨県甲府市大和町1-53-2F TEL/FAX 055-270-1004
E-mail 21-22g.kobayashi@ri2620.gr.jp URL <https://www.ri2620.gr.jp>

